

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業助成 事業報告書

1 申請団体・グループ名

からほり倶楽部

2 事業のテーマ・タイトル

上町台地・まちの学校～まちに気づく、まちから気づく

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
8 月	
9 月	4 日(月) 企画検討会議 企画内容の最終確認・決定、チラシ印刷手配、PR方法確認など 中旬 チラシ印刷上がり、チラシ配布、ホームページ開設
10 月	2 日(月) 企画検討会議 各企画の準備状況・参加申込状況など確認、チラシ印刷手配、PR方法 確認など 6 日(金) 朝日新聞夕刊大阪版に一連の事業が紹介される 8 日(日) 『惣堀ツーリズム～空堀跡を歩き、いにしえのときを知る』 概要＝豊臣大坂城時代の南惣堀(空堀)の推定地や大坂冬の陣の折りに空堀 の外側に築かれた真田山の推定地などを歩きながら、400年余のまち の歴史を振り返りました。また、複合商業施設「結」では合戦時に食さ れたおにぎりを再現した昼食を摂るとともに、大阪城天守閣研究副主 幹の北川央先生によるミニ講演、長屋再生複合商業施設「惣」南隣に当 日オープンしたばかりの「惣・新館」では空堀の堀端に築かれたとされる 「木柵」の再現展示を見学しました。 コース＝JR玉造駅→三光神社→宰相山公園→複合商業施設「結」→空清町→空 堀商店街→直木三十五記念館→複合商業施設「惣・新館」 15 日(日) 『平成18年度中央区民まつり～空堀ブース』 概要＝毎年行われる中央区民まつりに「空堀ブース」を出展し、空堀界隈の歴 史や街並みなどの紹介や、長屋再生などの事業PRを行うとともに、 区民まつりに参加した区内の多彩な市民団体などとの出会いと交流の 機会を持った。 21 日(土) 『城塞を大河ドラマにする会！』 概要＝数々の歴史小説のみならず、日本社会や日本人のあり方を鋭く問いか ける随筆も数多く遺された司馬遼太郎氏の長編小説「城塞」にスポット を当て、その大河ドラマ化や配役などを楽しく夢想しながら、上町台 地で繰り広げられた大坂冬・夏の陣を取り巻く人間模様を追った。 29 日(日) 『上町台地ヒーリング・スタイル～和と食と笑いの午後』 概要＝なにわのまちで育まれた豊かな食文化。なかでも復活著しい「なにわ伝 統野菜」と大阪湾の活け魚など地元食材をふんだんに使った浪速魚菜丼 当。庶民の暮らしを彩った上方芸能「落語」。数ある地のなかでも特に 空堀界隈の長屋暮らしがベースになった「らくだ」。なにわの食と笑い を上町台地に再生された近代大阪の和の空間「縁」で楽しみながら、都 市空間のなかでの癒しのひとときを体感するとともに、近世・近代の都 心居住に思いを馳せた。
11 月	6 日(月) 事業反省会 参加者数報告、参加者の声など事業評価
12 月	4 日(月) 事業反省会 事業精算中間報告、今後の展開の検討 6 日(水) マイルドHOPEゾーン協議会中間報告会
1 月	18 日(木) 事業反省会 事業最終精算報告、今後の展開の検討
2 月	報告書作成

4 事業の効果・今後の展望

効 果	『惣堀ツーリズム～空堀跡を歩き、いにしえのときを知る』 成果①これまで空堀との縁が意外と少なかった「歴史ファン」の取り込みが出来た。 ②「空堀」という地名の由来である南惣堀について実感する機会はこれまでほ んどなかったが、今回試行することが出来た。 ③歩きながらの専門家による解説や古地図との見比べなどにより、地形や風景 の変遷を感じ取ることが出来た。 ④普段は訪れにくい「心願寺」や「円珠庵」なども出入りすることが出来、「空堀 つながり」の横軸が形成できた。 『平成18年度中央区民まつり～空堀ブース』 成果①空堀界隈の様子や長屋再生などの事業について、区民に広報PRする機会が持 てた。 ②ブースを訪れる区民や区内の市民団体など他のブース関係者の声を直接聞く ことで、空堀のイメージや事業の認知度などを実感することが出来た。 『城塞を大河ドラマにする会！』 成果①テーマはかなりマニアックではあったが、これまで空堀に集う人たちは道 う集まりが持てた。 ②まちづくりからは一見縁遠い内容にも関わらず、人が交じり合い、住み合う 土地で営々と続く人間模様に思いを馳せることが出来た。 ③空堀や上町台地を広くアピールしていく可能性やツールに新たな幅を持たせ ることが出来た。 『上町台地ヒーリング・スタイル～和と食と笑いの午後』 成果①食文化と上方芸能を空堀という空間やお屋敷再生事業「縁」という場所につな げることで、予想以上の反響が得られた。 ②「なにわ伝統野菜」の復活に取り組むNPOや落語家など、これまでつながり のなかった分野の人たちとの、事業を通じたネットワーク形成が図られた。 ③「からほりまちアート」開催日に併せたことで、演芸ファンやグルメがアート やアーティストを通じてまちを感じ取ることが出来た。 【事業全体を通じた成果】 ①長屋再生や街並み修復といった建築や都市計画の観点を中心に活動を展開して きたが、街並みとともに培われてきた地域の歴史や生活文化に焦点を当てる取 り組みを試行することができ、また、それらを通じた関心の喚起を図る可能性 が開けた。 ②企画テーマを広げたことで、建築や都市計画分野以外に歴史や文化などに関心 のある人たちとの出会いとネットワークづくりが図られた。 ③1ヶ月近くわたる事業展開により、地域のアピールやイメージ浸透が図られ た。
今後の 展 望	「惣堀ツーリズム」のように楽しく分かりやすい専門家の解説付きまち歩き 機会への期待は高く、今後もテーマとメニューに工夫を凝らしたまち歩き機 会づくりを行っていきたい。 「上町ヒーリング・スタイル」では落語という古典芸能と古い街並み・お屋 敷空間のコラボレーションが好評を博したが、落語家や調教師などの空堀界 隈への関心も高く、費用面の工夫を図りながら、彼らとの協働も続けていき たい。 「城塞を大河ドラマにする会」はその後も継続開催しており、遊び心を交え ながらも、まちへの新たなアプローチが切り開けつつある。 長屋や街並みへの直接的な取り組み以外に活動の幅を広げることで、まち へより多くの関心を集める可能性が見出せた。今後も時間を掛けながら、地 域内外の人たちと出会う機会、参画の窓口を多様化、拡大化していきたい。